

東北景観研究所



所長 不破 正仁 (建築学部 建築学科 准教授)

本学が所在する仙台・宮城・東北を題材とし、ミクロな生活空間からマクロな都市空間までを展望する。東北には、人と自然が調和して永年持続している魅力的な景観が数多く残されている。一方でそれらの解明が進まず、研究未開の地の存在が多いことが課題のひとつである。これらの題材に多角的に取り組むことは、地域景観価値の再認識に留まらず、地域の魅力の一層の向上や環境変化への適応法など、基礎的知見を得ることに繋がると考えている。

研究キーワード

- 民家 ●屋敷林 ●農村 ●歴史的町並み ●伝統建築 ●景観 ●景色 ●街路樹 ●微気候
- 心理 ●環境心理 ●都市環境 ●居住者意識 ●地域防災 ●地球環境 ●持続可能性

研究内容

- 東北の農村景観／町並みの魅力やその特質を再評価・再定義し地域に発信。
- 「景観」をキーワードにミクロな生活空間、およびマクロな都市環境を横断的に考察する。
- 地域資源の抽出・保全によって、地域に現存するものの魅力の再評価・再定義を行う。
- 屋敷林の景観特性、そして、農村の景観と微気候の再評価を試みる。
- 農家カフェの空間特性と農村景観の相関性を考慮する。
- 在郷町(=田舎町)の景観特性を分析し、「外通路」の再評価を試みる。



東北の農村景観の代名詞である「屋敷林」



「農家カフェ」から広がる農村景観の保全

東北の景観の魅力や
特質を再定義し地域に発信

